

代表質問

この定例会では、議案や市政全般について、各会派を代表して6人の議員が質問し、活発な議論を展開しました。

その概要は、次のとおりです。

*代表質問の録画放送を福山市のホームページで見ることができます。

水曜日



熊谷 寿人

市長の政治姿勢を問う

問 人口減少対策や連携中枢都市圏構想など、新たに重点化する施策について、市長の決意は。

答 いかなる状況下でも、このふるさと福山を、子や孫の世代に

誇りを持って引き継いでいかなければならないと考えている。

また、本市は、備後圏域のリーダーとして、将来にわたって発展し続けることができ、活力と成長力のある都市でなければならぬ。平成27年度からは、新たに策定した行政運営方針を踏まえ、心の豊かさが実感でき、活力と魅力ある地域づくりを進めるため、人口減少対策や連携中枢都市圏構想、協働のさらなる深化などを新たに重点政策として取り組む。

備後圏域のリーダーとしての決意は

問 連携中枢都市福山の首長としての決意は。

答 連携中枢都市の中核市の代表として、経済財政諮問会議の制度ワーキング会議など、国の諮問機関等への出席要請があったことは、これまでの取り組みの過程が国に一定の評価をされているものと受け止めている。

本市が圏域のリーダーとして、各地域の独自性と個性を生かした

予算編成に対する思いは

問 平成27年度の予算編成に当たり、市長の思いは。

答 これまで進めてきた行財政改革の取り組みにより、人件費や公債費の圧縮を図るとともに、公共施設維持整備基金や合併特例債の新たな活用など創意工夫を凝らす中で財源確保に努め、とりわけ未来を担う人づくりを進める視点から、小中一貫教育の推進など教育費については27億円、18・1%の増と特に意を用いた。



連携協約締結式

から、これまでの取り組みを継続し発展させていくほか、大胆な政策立案を行うなど、「豊かさが実感でき、いつまでも住み続けたい備後圏域」の実現に向け、まい進していく決意である。

先日、特別職を含めた職員に対し、本市が担っていくべき中枢都市としての責任と役割について、直接思いを伝えたところである。

また、投資的経費については、学校施設の耐震化をはじめ、轄地区公共施設整備や総合体育館の設計、公施設延命化の維持補修など、4年ぶりに150億円台の予算を確保し、未来志向の「積極型予算」を編成することができた。

※連携中枢都市：指定都市または中核市で、昼間人口が夜間人口より多く、三大都市圏の区域外に所在する都市をいう。連携中枢都市は、連携市町との役割分担のもと、圏域全体の経済成長のけん引や高次の都市機能の集積・強化などを担う。